

平成 27 年度に係る業務の実績に関する評価結果

国立大学法人奈良女子大学

1 全体評価

奈良女子大学は、女子の最高教育機関として、広く知識を授けるとともに、専門の学術文化を教授、研究し、その能力を展開させるとともに、学術の理論及び応用を教授、研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目指している。第2期中期目標期間においては、社会の要請や時代の変化に柔軟に対応できるよう、教育研究組織や業務全般の見直しを行い、効率的な組織運営を図ること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、男女共同参画の視点を持った講師を迎え、女性の多様な生き方・働き方を紹介しキャリア形成を支援するとともに、託児システム「ならっこネット」のウェブ環境を改善し、育児支援の拡充により研究環境を整備するなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について

第2期中期目標期間において、お茶の水女子大学と連携し、女性の特性を生かした新たな理工系研究・教育の在り方を開発することを目的に、女子の理系進学を阻害している要因を取り除き、女性に適した新たな理科教育の方法を中等教育課程・高等教育課程それぞれに即して確立するとともに、「生活工学」分野においてイノベーションを先導する女性リーダーの育成を行う「戦略性が高く意欲的な目標・計画」な計画を定め、積極的に取り組んでいる。

平成27年度は、「理系女性教育開発共同機構」を設置し、キックオフシンポジウムの開催、中等教育・理数カリキュラム開発のための附属学校と連携した調査研究、進路選択に関する意識調査等を行っている。また、「大学院人間文化研究科生活工学共同専攻」を平成28年度に開設するため、入試、広報活動、教育課程の整備を進めている。

大学の機能強化に向けた取組の状況について

教員人事について、定年退職や転出等に伴い生じた欠員ポストは学長が管理し、全学的・戦略的観点から職階の見直し等も含め再配置を決定しているほか、年俸制適用教員の業績評価を実施して次年度の年俸に反映させている。

2 項目別評価

<評価結果の概況>

	特 筆	順 調	おおむね 順調	やや遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化		○			
(2) 財務内容の改善		○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供		○			
(4) その他業務運営		○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載24事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 男女共同参画の視点からのキャリア形成支援

ポストドクターや博士後期課程の学生に対して、自己分析セミナーや個別対応のキャリア相談の中で、ジェンダーが自分のライフ・キャリア形成に与える影響について振り返る機会を提供している。また、キャリアセミナーやワークスタイルセミナーにおいて、男女共同参画の視点を持った講師を迎え、女性の多様な生き方・働き方を紹介するなど、男女共同参画の視点からキャリア形成を支援している。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、③資産の運用管理の改善

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 寄附獲得額の増加に向けた取組

「なでしこ基金」への募金額を向上させるため、パンフレットを作成して同窓生・在学生の保護者等のステークホルダーに配布し、募金への呼びかけを行うとともに、高額寄附者については顕彰する銘板を作成し、重要文化財である記念館玄関に設置する取組を始めたことなどにより、平成27年度の「なでしこ基金」受入総額は164件約3,100万円となり、金額において対前年度比約10倍となっている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載3事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守、④情報セキュリティ

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載15事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成26年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成27年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 英語科目における少人数の習熟度別クラスの実施

「奈良女子大学的教養」を身につけるための中核科目として「教養コア科目」を開講するとともに、英語科目のクラス数を平成26年度より1.5倍に増加させ、少人数の習熟度別クラスに改めることによって教育効果を高めるなど、教養教育改革を推進している。

○ 理系女性人材育成の充実に向けた取組

お茶の水女子大学と共同で「理系女性教育開発共同機構」を設置し、理系女性ハードリング支援プログラムを実施するとともに、女性の強みを生かした生活者の視点からの新たな工学である「生活工学」を立ち上げるため、平成28年度に「生活工学共同専攻」を設置するための準備を行っている。

○ 育児支援の拡充による研究環境の整備

託児システム「ならっこネット」のウェブ環境を改善し、子育て支援を行うサポーターの選択肢を増やすなど、利用しやすいようにシステムを改めた「ならっこWeb」の運用を開始しており、支援数は269件となり、平成26年度の約4倍に上っている。